

## 第47回NPO研究会の報告



日時：2008年2月16日(土) 午後1時30分～3時

場所：福島大学サテライト（チェンバおおまち3F）

テーマ：奥会津で気を吐く「奥会津書房」の活動

話題提供：遠藤由美子氏（奥会津書房編集長）

福島市はまだ底冷えのする寒い時期にあります。今回は、もっと雪深い寒さの厳しい三島町から、「奥会津書房」編集長の遠藤由美子さんをお迎えして熱い話を伺いました。何よりも書籍に賭ける熱い思い、そして奥会津の生活風習を師と仰ぎ、そこから学んだことを100年先の子供たちに伝えたいとする熱い志が披瀝されました。

これから毎年1冊ずつのペースで『会津学』として10冊のシリーズものを世に出して行きたいという抱負が述べられましたが、その発想のきっかけは、昭和村で募集したからむしの織姫が、地元奥会津に嫁ぎ、その嫁ぎ先で歳時記(年中行事)を記録したことが発端になっているということでした。そして、その記録を読んだご近所の人々が、家々で微妙に差異があることに気がついて、さらに関心を集めるようになったということでした。

NPOとの関係では、自治体や企業から補助金や助成金をもらって本を出版した場合、有料で本を売ることができないという問題があり、法人格を取得して補助金や助成金を取得しやすい組織体制にするメリットが必ずしもみられないこと、仮に法人格を取得して組織の維持を優先することになると、多分に本を編むという本来業務以外の余分な仕事が増えてしまうのではないかという心配があることなど、いまのところNPO法人にするための積極的理由が認められないということでした。

私としては、NPO法人にするかどうかは別にして、せつかく会員制も導入していることでもあるし、おそらく活動趣旨に賛同する人も潜在的には多いはずなので、長期戦になることを想定すると、その辺を追い風に変えてもう少し楽な組織運営にもっていけないものかという感想をもった次第です。

(文責 星野)

## 第47回NPO研究会の報告



日時：2008年2月16日（土）午後1時30分～3時

場所：福島大学サテライト（チェンバおおまち3F）

テーマ：奥会津で気を吐く「奥会津書房」の活動

話題提供：遠藤由美子氏（奥会津書房編集長）

福島市はまだ底冷えのする寒い時期にあります。今回は、もっと雪深い寒さの厳しい三島町から、「奥会津書房」編集長の遠藤由美子さんをお迎えして熱い話を伺いました。何よりも書籍に賭ける熱い想い、そして奥会津の生活風習を師と仰ぎ、そこから学んだことを100年先の子供たちに伝えたいとする熱い志が披瀝されました。

これから毎年1冊ずつのペースで『会津学』として10冊のシリーズものを世に出して行きたいという抱負が述べられましたが、その発想のきっかけは、昭和村で募集したからむしの織姫が、地元奥会津に嫁ぎ、その嫁ぎ先で歳時記(年中行事)を記録したことが発端になっているということでした。そして、その記録を読んだご近所の人々が、家々で微妙に差異があることに気がついて、さらに関心を集めるようになったということでした。

NPOとの関係では、自治体や企業から補助金や助成金をもらって本を出版した場合、有料で本を売ることができないという問題があり、法人格を取得して補助金や助成金を取得しやすい組織体制にするメリットが必ずしもみられないこと、仮に法人格を取得して組織の維持を優先することになると、多分に本を編むという本来業務以外の余分な仕事が増えてしまうのではないかという心配があることなど、いまのところNPO法人にするための積極的理由が認められないということでした。

私としては、NPO法人にするかどうかは別にして、せつかく会員制も導入していることでもあるし、おそらく活動趣旨に賛同する人も潜在的には多いはずなので、長期戦になることを想定すると、その辺を追い風に変えてもう少し楽な組織運営にもっていけないものかという感想をもった次第です。

（文責 星野）

## 第47回NPO研究会の報告



日時：2008年2月16日（土）午後1時30分～3時

場所：福島大学サテライト（チェンバおおまち3F）

テーマ：奥会津で気を吐く「奥会津書房」の活動

話題提供：遠藤由美子氏（奥会津書房編集長）

福島市はまだ底冷えのする寒い時期にあります。今回は、もっと雪深い寒さの厳しい三島町から、「奥会津書房」編集長の遠藤由美子さんをお迎えして熱い話を伺いました。何よりも書籍に賭ける熱い思い、そして奥会津の生活風習を師と仰ぎ、そこから学んだことを100年先の子供たちに伝えたいとする熱い志が披瀝されました。

これから毎年1冊ずつのペースで『会津学』として10冊のシリーズものを世に出して行きたいという抱負が述べられましたが、その発想のきっかけは、昭和村で募集したからむしの織姫が、地元奥会津に嫁ぎ、その嫁ぎ先で歳時記(年中行事)を記録したことが発端になっているということでした。そして、その記録を読んだご近所の人々が、家々で微妙に差異があることに気がついて、さらに関心を集めるようになったということでした。

NPOとの関係では、自治体や企業から補助金や助成金をもらって本を出版した場合、有料で本を売ることができないという問題があり、法人格を取得して補助金や助成金を取得しやすい組織体制にするメリットが必ずしもみられないこと、仮に法人格を取得して組織の維持を優先することになると、多分に本を編むという本来業務以外の余分な仕事が増えてしまうのではないかという心配があることなど、いまのところNPO法人にするための積極的理由が認められないということでした。

私としては、NPO法人にするかどうかは別にして、せつかく会員制も導入していることでもあるし、おそらく活動趣旨に賛同する人も潜在的には多いはずなので、長期戦になることを想定すると、その辺を追い風に変えてもう少し楽な組織運営にもっていけないものかという感想をもった次第です。

（文責 星野）